

# それいゆ

いなぎの女性情報誌



## 内 容

- いなぎの女性 (ひと)  
～女性起業家 荻野美鈴さん～
- 「稲城はたらくママの会」を紹介します
- 男女平等推進セミナーⅠ  
「主夫になってはじめてわかった主婦のこと」実施報告
- 男女平等推進セミナーⅡ  
「～主婦の再就職応援講座～面接で受かる人になる」実施報告
- 男女平等推進センターのご案内

vol.27  
2015

稲 城 市

# いなぎの女性 (ひと)

今回は、稲城市在住の女性起業家

おぎのみすず  
荻野美鈴さんを紹介します。

差し障りのない範囲で結構ですので、起業前はどんな職業に就いていましたか？

数社の企業に勤めましたが、主に消費財（個人や家庭で使用するために買うすべてのもの）を扱う外資系企業でセールスプロモーション（販売促進）、商品宣伝などマーケティングの仕事をしていました。

私は物事を考えたり、プランを練る仕事が好きです。マーケティング部は会社では花形部署でしたし、大きなお金を使って、セールスプロモーションをやったり、プレス発表したり、新商品の紹介など華やかな面も自分に向いていたと思います。しかし、マーケティングを勉強したことはなかったので、「しっかりと学校で学びたい」と思い、当時働いていた企業を退職し2年間米国留学をしています。

帰国後は外資系の企業に再就職し、結婚を機に会社を辞めた後、フリーランスで独立しました。主な仕事は企業に対するマーケティングサポート、セールスプロモーションツール（パンフレットやカタログ等）やキャンペーンの企画、コピーライティングなどです。

息子を出産した後はフリーランスでの仕事は継続が難しかったのですが、預かり保育や延長保育を利用し細々とできる仕事を続けてきました。しかし息子が小学生になったことで「小1の壁」(\*)にぶつかり、仕事を一旦休止することにしました。

何かしらの仕事は継続していきたいという希望があったので、子育てを中心とした暮らしの中で自分にできることは何かと模索した結果、2013年に「小学生向け英語教室」の開業に至りました。また、同年、自分と同じように子育てを軸としながらやりたい仕事を模索するママ達と共に「稲城はたらくママの会」を結成し、ママ達が自分らしく社会と関わることを助ける非営利の活動を行っています。

そして、ある程度育児から手が離れた2015年春から、フリーランスでの仕事を再開し、現在は英語教室運営と両輪でやっています。

(\*) 小1の壁とは…保育所と比べると放課後児童クラブの開所時間が短いため、子供が小学校に入学すると、これまで勤めてきた仕事を辞めざるを得ない状況となること（内閣府男女共同参画局ホームページより）

起業を決意したきっかけをお聞かせください。

最初は、フリーランスのプランナーとして独立をしました。以前働いていた外資系企業では子育てをしながら働く女性が多かったのですが、ほとんどが産休明けには一線を退いて管理部門に異動し、せっかく復帰しても退職してしまう人もいて、育児と会社勤めの両立の難しさを感じていました。

結婚が決まり、子供のいる生活を意識し始めた頃、「やりたい仕事ができなくなってしまうなら会社にいる意味もない」と思い、自分のキャリアが伸ばせ働き方の自由度も高いフリーランスという働き方を選択しました。

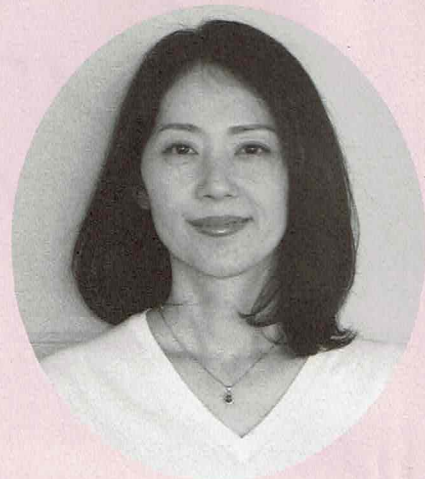
出産後は仕事も辞め、子育て中心の生活になり、自分のことはそっこのけで家族のために、何でもやっていたが、ふとしたときに「幸せは幸せだけどこれでいいのかな？」と自分の生き方に疑問を感じることもあり、「私は自分の人生の真ん中を生きていきたい」と強く思ったんです。それは、その後やりたい仕事で再スタートするための原動力になりました。

昨年、中小企業に対してマーケティングの実施支援をする事業で再スタートしました。

起業してよかったことを教えてください。

自分がベストなバランスで仕事ができることです。女性の人生は結婚や出産、育児でフェーズ（段階）が変わっていくものだと思います。それによって生活の中心をどこに置くか、何に時間を使うべきか、が変わってきます。我が家の場合、「経済」の軸は夫が支え、「子供を育て家を守る」という軸を私が支えていますので、それを保つ働き方がベストです。今後も子供の成長や家の状況によって私の働き方を変えていきたいですね。

また、「稲城はたらくママの会」や地域NPOでのボランティアなどライフワークとして社会の役に立つ活動を継続



したいので、週1日は地域のためになる活動に充てたいと思っています。そのためにもフリーランスという働き方が今はベストだと思います。

起業のもう一つの良い点は、自分の足でしっかりと屹立しなければ成り立たない働き方なので、自分の働き方、在り方、生き方というものに常に真剣に向き合い、自分の人生にコミット（結果を出すために最大限の努力をする）し続けられるところです。

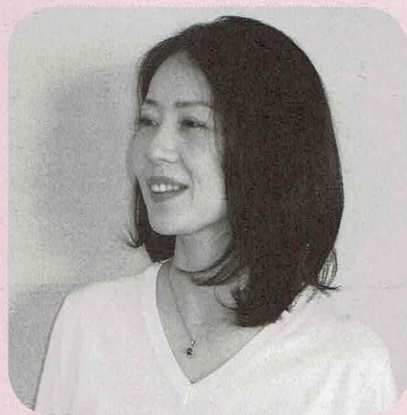
### 起業してみても家族からの反応はありましたか？

夫は、私がやり過ぎてしまう性格を良く分かっているので、始終家を開けたり、外食がちになったり、多忙で精神的余裕がなくなることなど、働くことによる子供や家庭への影響を常に心配しています。

夫の安心を得て働くためにも自分なりに働き方のルールを作っています。例えば、最低でも週1日は子供の学校の帰宅時間に家にいる、宿泊のある出張は受けない、夕方6時頃には帰宅する、家で済む仕事は家でする、休日はできるだけ家族一緒に過ごす、など。仕事が差し迫るとなかなか難しく、本音では思い切り仕事に打ち込みたいと思う時もありますが、子供の成長とともに環境も変わるはずなので、今はセーブした働き方をしています。

### 一日のスケジュールを教えてください。

- 6:45 ————— 起床、朝食用意、洗濯、軽く掃除や夕食の仕込みなど
- 8:00 ————— 子供を送り出し、仕事先へ
- 10:00～16:00— 仕事先で打合せや業務など
- 17:30 ————— 帰宅途中で買い物
- 18:00～20:00— 帰宅、夕食用意、夕食、家事
- 20:30～22:30— 自室で仕事、子供の勉強をみる、入浴
- 22:30 ————— 子供と就寝
- 23:00 ————— 一旦起床し雑用、夫の夕食の後片付けなど家事の残り
- 23:30 ————— 勉強（読書、調査）  
移動時間や勉強の時間にネットで情報収集したり、業界の書籍を読んだり…。学びのインプットを頑張っています。
- 1:00 ————— 就寝



### 起業してやりがいを感じられるときはどんな時ですか？

私は常にエネルギーが外に向くタイプで、いつも社会と繋がっていたいと思っています。英語教室を始めたときは、子供を見守れる居住区域の中で働き、なるべく地域の役に立つ仕事がしたいと考えていました。最初は自分の楽しみのために子供たちにボランティアで英語を教え始めたのですが、お母さん達から「ありがとう」とたくさん言われまして。そんな風に生徒の保護者に評価された時、家族以外の人に必要とされていることを実感できる時が一番やりがいを感じます。起業したからというわけではなく、私の働く喜びはそこにあるのだと思います。

次には、自分一人の力で仕事を生み出し、考え、行動し、結果を出すことは難しいですが、難しいだけにとっても達成感を感じます。また、自分の成長だけでなく、生徒や仕事上のチーム全体の成長もとても嬉しいものです。

### 起業して何にいちばん苦労されましたか？

物理的、精神的なバランス。仕事面においては、「母」も「主婦」もやらなければいけない。毎日夕方6時位には家に帰り、大急ぎで夕食を作って溜まった家事もこなさなければいけないのですが、仕事相手はそういう私の事情は関係ないわけですね。「荻野さん、子供がいるから」と分かっているけど、やっぱりそれなりの精度を要求されるのです。なんとか頑張って期待以上のものを作っていかなければならない。逆に子供や夫は、「私が働いてる」という状況は分かりながらも私が機能しないととても困る。どちらも私でないとできないから頑張るしかない。自分の選択でやっていることなので頑張れなかったら仕事を諦める他ないです。諦めたくないからジタバタ頑張っています。やはり、どうしても仕事のことが優先されてしまって、その分、子供と家のことが犠牲になりがちなので、もっと工夫が必要だといつも反省しています。

### ひと息のつきかたはありますか？

子育てがあるから仕事をとても楽しめるし、仕事があるから心に余裕を持って子供にも接する事ができるような気がします。あまり息抜きは必要ないかもしれません。両方で上手くガス抜きできていると思います。子育てばかりしていると、子供や家族には必要とされているけれど、人間、それだけでは生きられなくて。子供じゃない、家族じゃない、誰かから、社会から必要とされて「あなたが必要です」「役に立つんです」と言われることが、働く喜び、生きて

いる喜びになる。人間、誰しもそうだと思う。その両方を得られているので私はすごく幸せだと思います。

それから、気分を上げる工夫もしています。自分自身を磨くこと、メンテナンスすること。美しく見せるために、例えば髪の毛をきれいしたり、まつげエクステーションをしたり、トレーニングDVDを観ながら体を鍛えたりしています。外見ですが、何より気持ちが上がるので、そういうことが大事な。あと、気が置けない友達とご飯を食べに行ったり、ひたすら馬鹿な話をして笑うとか。

## これからの夢、目標がありましたら教えてください。

現在の事業（中小企業に対してのマーケティングの実施支援）の中で、一定の分野に特化した専門性を確立していきたいと考えています。家族の状況が変わっても、柔軟に働き方を変えることで仕事を続け、一生プレイヤーであり続けたいです。また、ライフワークとして、地域に役に立つことを継続していきたいです。

## 最後にこれから起業をはじめめる人、考えている方にひとことメッセージをお願いします。

一番大事なことは、本当にやりたいことを事業にすることだと思います。私自身は、できることではなく「やりたいことは何か」を常に自問自答してきました。本音を掘り出していくことは私にとって難しい作業で時間もかかりました。

また、本当にやりたいことを見つけるためには、自分の資質を知る必要があると思います。資質に合ったやりたいことであれば、常に内側から湧き上がる動機を持って、高いモチベーションを維持できます。

本当にやりたいこと<sup>＝</sup>軸が決まったらとにかく動いてみることでと思います。考える時間が長くなると、できない理由が出てきます。その分野の本を買う、セミナーや勉強会に行く、起業している方に会って話を聞いてみる、などすぐにできる小さいことをとにかくやってしまう。小さい行動が勇気を作り、勇気が次の行動の原動力になるので、そのように行動していくうちに物事は縦軸に繋がっていくのだと思います。

自分にしかできない仕事の積み重ねがキャリアだと思います。精一杯に自分らしく楽しんでお仕事をさせていただきます。皆様のご活躍をお祈りしています。

# 「稲城はたらくママの会」を紹介します

## 稲城はたらくママの会代表の

おぎのみすず  
荻野美鈴さんにお話を伺いました。

どのような目的でできた団体ですか？  
また、活動状況を教えてください。

「稲城はたらくママの会」は、稲城市と近隣地域の個人事業やフリーランスで働くママたちが有志で結成している地域活動団体です。

メンバー同士助け合い、情報を共有して協働していくことで、それぞれの仕事を地域の中でしっかり成り立たせていくことを目的として作られた団体です。

また、子育てを軸とした暮らしの中で自分らしく地域社会で働きたいというたくさんのママ達を応援・サポートすることも目的としています。

メンバーは25名ほどで、お料理教室の先生、パン屋さん、ストレッチクラス主催、英語教室主催、webデザイナー、手作り品の企画販売、YOGAインストラクター、ピアノ教室主催、カラーセラピスト、稲城の農業支援コーディネーター、整理収納アドバイザー、翻訳家、など様々な活動をしているママ達です。ちなみに年齢制限はありません。現在は30代半ばから40代のメンバーがいます。



会では、隔月にイナセン（inagi central placeの略）という定例会があります。イナセンでは、交流会＆勉強会の実施、地域活動への参画、イベント企画・実施などを行っています。また、メンバー同士でコラボレーションしながら個々にイベントやマルシェ（手づくり市）なども行っています。

団体の名前の由来を教えてください。

率直で分かりやすいものにしようと思い、狙ってこの団体名をつけました。この団体は稲城市の中で屹立していきたいと思ったので、おじいちゃん、おばあ

ちゃんが見ても「はたらくママなんだ」と分かるようにしたかった。ママが目立っているので、「子育てママの会なの？」と言われることもあります。

### 活動をしていて、よかったことは何ですか？

「稲城はたらくママの会」が、真剣に自分の生き方や仕事と向き合っているママ達のハブ（中核）となれたことです。勉強会やイベント企画・実施など、メンバーが主体となり自発的に参加する場が作れたこともとても良かったと思います。ママ友ではなく仕事を軸に繋がった関係性なので「自分の言葉」で話ができる貴重な仲間です。

### 活動をしていて、大変だったことは何ですか？

私を含め3人で立ち上げた会ですが、最初は空回りばかりの期間がしばらく続きました。1年ほどは会の意義や目標を3人で真剣に話し合ってきましたが、意見が分かれ、軸がなかなか定まらず苦しい期間でした。

その後は徐々にメンバーが増えていったものの、なかなか共感を得られず、グループとしてもまとまりがなく何をするのかよく分からない団体だったと思います。時にメンバーや部外者からも厳しい意見を言われたり、定例会を開いても誰も来てくれないこともあり、「地域を良くしよう」「自分達と同じようなママ達を応援したい」という気持ちで立ち上げた会なのに、裏目に出ることばかりで心が折れかけたことも度々です。

でも、苦労があったからこそ3人の関係性が強くなっていったと思います。この3人だからこそこまで来られたと思います。他に代わりがないとても大事な仲間です。

イナセンで勉強会を行っていくうちに少しずつメンバーが主体的に関わってくれるようになり、そのうちにコラボイベントなどメンバー同士の闊達な交流が始まり、今は「稲城はたらくママの会」という一つのチームになれたようでとても嬉しく思います。

「早く行きたければ一人で行け。遠くまで行きたければみんなで行け (If You Want To Go Fast, Go Alone. If You Want To Go Far, Go Together.)」というアフリカの諺があるようです。これからもモメたり、すれ違ったり、伝わらなかつたりすることもあると思いますが、それも乗り越えてみんなで遠くを目指したいと思います。

### 今後の目標があれば教えてください。

子育て中や子育てのためにブランクが空いてしまっているママ達の社会復帰の一助となる活動も、あわせて行っていきたいと考えています。

1つ目は、在宅や子連れでできることを中心とした仕事の分配です。仕事から離れてしまっているママ達に少しでも社会と関われる機会を作っていくことで、

社会復帰しやすくする、スキル向上に繋げることを目的としています。事業者にとっても社会貢献につながることであり、コスト面のメリットもあるかと思いません。たくさんママ達の能力を活かし、地域で積極的に活用するシステムを稲城に作りたいです。

2つ目は、会主催のキャリアアップセミナーや起業セミナーなどのイベントを積極的に開催していきたいと考えています。昨年は助成金を受けて、「子育てを軸とした暮らしの中で働くことを考える」、という「プチ起業」をテーマに起業支援セミナーを行い、参加したたくさんママ達にご好評をいただきました。そのようなセミナーを行うことで、女性が主体的に人生にコミットする（結果を出すために最大限の努力をする）意識作りのきっかけとなればと考えています。

他地域の方々から「稲城のママ達はエネルギーだ」とよく言われます。ママが明るく笑っている家は円満でうまくいくように、地域も同じだと思います。もっともっとママを元気にして稲城を良い街にしていきたいです。

### 「それいゆ」を読んでいる方へのメッセージをお願いします。

- ・これから何かやりたい
- ・自分らしく社会に関わりたい
- ・稲城でママ友以外の仲間が欲しい

そんな方は是非会に参加してください。少しでも興味があれば気軽にイナセンにいらしてくださいね。

<http://iwmc.jimdo.com>

### 活動をしている皆さんにインタビュー

あなたにとって「稲城はたらくママの会」はどんな存在ですか？

- 学びの場です。他の活躍しているメンバーの話聞いて学んで、刺激を受ける場所。
- 普段は一人で活動しているので「仲間」という感じがあります。皆さんが頑張っていると自分も頑張ろうと思います。また、この会のつながりで自分の仕事が広がります。
- 一人で仕事はできますが、どう広げていけばいいかと考えるとアイデアが枯渇してしまいます。この会のメンバーは異業種の方なので、メンバーの話聞くとプラスになることが多いです。



実施しました

# 男女平等推進セミナー

市では、男女がお互いの生き方を尊重し合える社会の実現に向けて、男女平等推進セミナーを開催しています。今年度は9月に地域振興プラザにおいて実施しました。当日の様子と参加者の感想を一部ご紹介します。

## 男女平等推進セミナーⅠ

### 「主夫になってはじめてわかった主婦のこと」

実施日時：平成27年9月5日（土）14時00分から16時00分まで  
講師：中村シュフ氏（主夫芸人、家政アドバイザー）

家事について夫婦間での理解を深めるために、主夫歴5年の中村シュフ氏をお招きし、男性の視点での家事・育児の関わり方、夫婦間のコミュニケーションについてお話していただきました。セミナー中盤では、グループワークを行いました。



#### 当日の参加者より

家でお手伝いをしたとき、これまで点でしか考えられていなかったという事が、よくわかりました。これからは線のお手伝いが出来る様に努力したいと思います。本当にありがとうございました。

初めて主人と一緒にセミナーに参加しました。家族にとって実りの多い講演だったと思います。有難うございました。

家事、主婦について、自分の考えが、凝り固まっていることに気づかされました。大変勉強になりました。

楽しい講演でまたお話が聞きたいです。

頑張り過ぎない事を学びました。とても良かったです。

家事は流れがあるというのは新しい発見でした。

話に引き込まれました。今後も市のセミナーに積極的に伺いたいと思いました。

男の方も沢山参加されていて、時代は開けてきていると感じました。ありがとうございました。

## 男女平等推進セミナーⅡ

# 「～主婦の再就職応援講座～面接で受かる人になる」

実施日時：平成27年9月30日（水） 10時00分から12時00分まで

講師：上田晶美氏（株式会社ハナマルキャリア総合研究所代表）

結婚や出産などを機に離職した女性の再就職を応援する講座です。

再就職準備として、就職に向けての計画の立て方、職場のコミュニケーションの取り方、面接時の入室～挨拶～着席についてお話していただきました。



### 当日の参加者より

前向きな情報とやる気を出させる講義に感謝です。

またすぐに就職活動を考えている訳ではなかったのですが、お話が聞いて元気がもらえました。未来の自分を考える時間になりました。

先生のパワーをいただき元気になりました！！

いきなり高いところから目指すのではなく、まずワンポイント（ウォーミングアップ）からスタートするというのが、印象に残りました。



なかなか前へ進めずに困っておりましたが、少しすっきりしてきました。現在の日本の社会、仕事、ニーズについて知る事ができた。ありがとうございました。

# ご利用下さい。男女平等推進センター（地域振興プラザ1階）

## 施設案内

開館時間は午前9時から午後10時。  
休館日は第2火曜日と年末年始です。

※施設の詳細については、稲城市役所の市民協働課へお問い合わせください。

## 打ち合わせコーナー

10名程度の話し合い  
に利用できます。

## キッズルーム

活動時の一時保育や  
授乳にも利用できます。

## 印刷室

印刷機、コピー機、拡大機、  
紙折機があります。（有料）

## 相談室（いなぎ女性の悩み相談）

さまざまな悩みについて専門の相談員が  
親身になって対応します。  
毎月第1・3水曜日、第4土曜日（要予約）  
（男性も水曜日は相談可）

## 情報資料コーナー

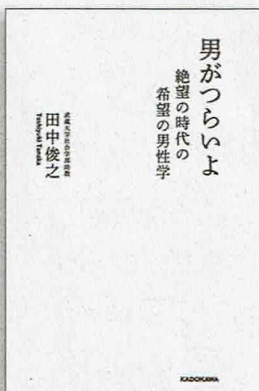
情報検索用のインターネットパソコンの  
利用や、書籍・行政資料・啓発ビデオなど  
の閲覧及び貸出しができます。  
（貸出しは2冊を2週間まで）

## お薦め図書のご紹介

### 男がつらいよ——絶望の時代の希望の男性学

著者 田中 俊之（武蔵大学社会学部助教）  
出版社 株式会社 KADOKAWA

かつて男性の人生は「卒業→就職→結婚→定年」という一本道を通るもので、この道を歩けること自体が一種のステータスにもなっていた。しかし「普通」と思っていた人生を実現できない男性が増えている。ここに多くの男性が「生きづらい」と感じる根本的な原因がある。本書は男性が抱える問題や悩みを研究する「男性学」の専門家が、「生きづらさ」の実態と生きやすくなるためのアイデアを解説する。



## それいゆ Vol.27

平成 28 年 3 月発行  
編集発行／稲城市市民部市民協働課男女平等参画係  
稲城市東長沼 2111  
電話 042-378-2111

誌名の「それいゆ」は、雑誌「青鞥」の創刊の辞として有名な「元始、女性は太陽であった」の太陽の意味です。やさしい響きのフランス語をひらがなに置き換えました。市民からの公募で命名された愛称です。「それいゆ」の発行は男女平等推進いなぎプランに基づく事業です。